

第2章 メインテーマ

群馬県は、県の環境の現状や県民の意識、環境に対するこれまでの取組、時代潮流等を踏まえながら、「群馬県環境基本条例」の究極の目標である、「良好な環境の保全と創造」を実現することにより、県民の健康で文化的な生活の確保を目指します。

しかしながら、時代はこれまでに経験したことのない人口構成の激変と人口減少社会を迎えています。人口の減少で、ごみの排出やエネルギー消費など、環境負荷の減少が予測されるものの、ライフスタイルの変化や、高齢化とそれに伴う単身世帯の増加により、むしろ環境への負荷が増加するとも言われています。また、人口の減少は、これまで人の手によって維持管理されてきた農地や里地里山の荒廃をもたらします。このように、環境から発生する問題は、地球温暖化、生物多様性の損失、資源の枯渇など、社会経済活動に直接影響を与えます。

これからの時代は、これまでのような生活環境や自然環境との調和を図りながら社会経済活動を行う社会から、人々が能動的に環境に働きかけ、より質の高い環境を創造し、次の世代に引き継いでいく社会へ移行していかなければなりません。そして、このような社会の実現を目指すこととします。

一方で、この目標を実現するための取組を進めるにあたっては、県政全体の羅針盤である「第15次群馬県総合計画」と目的・方向を整合させる必要があります。

「第15次群馬県総合計画」では、『限りない可能性を大きくはばたかせ、群馬の未来を創生する～「魅力あふれる群馬」の実現～』を目指すべき将来の方向と定め、県内各地域に先人が遺してくれた可能性を活かして、群馬の未来を創生し、次の世代に引き継いでいくとしています。

そこで、本計画のメインテーマを次のように定めます。

豊かで持続的に発展する環境県群馬を目指して

～環境への負荷が少なく環境の質が高い群馬の実現～

本計画において、「持続的に発展する環境県」とは、県民生活の水準や利便性、豊かな自然環境がもたらす潤い等は現状の水準を維持するか、さらに向上させながらも、温室効果ガスやごみ等の環境に負荷を与えるものの排出が抑制され、そして過度にエネルギーを消費する社会構造やライフスタイルを見直し、県民一人ひとりが能動的に環境に働きかけることにより、質が高く持続可能な環境県づくりに取り組むことと定義付けをし、この実現を目指すこととします。